
第 2 7 4 号
2016年2月17日

日 本 気 象 学 会

関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 関西支部第31期役員の補充・交代
- 2015年度 関西支部理事会報告
- 2015年度 関西支部総会および年会報告
- 関西支部気象関係合同進路説明会報告
- 関西支部 第37回 夏季大学報告
- 気象学会秋季大会実行委員会報告
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- (公社)日本気象学会入会案内

〒 540-0008
大阪市中央区大手前4丁目 1-76
大阪合同庁舎第4号館
大阪管区气象台内
日本気象学会関西支部
振替 00980-5-18318
TEL (06) 6949-6143
FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://kansai.metsoc.jp/>

E-mail：

kansai-info@metsoc.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力してください。)

○ 関西支部第31期役員の補充・交代

4月期の人事異動等に伴い日本気象学会関西支部長が常任理事、地区理事の推薦及び幹事の指名を行いました。新役員は以下の通りです。

	(旧役員)	(新役員)	(新役員の所属)
常任理事	見定 吉信	天満 仁	大阪管区气象台
常任理事	杉本 悟史	山下 寛	大阪管区气象台
地区理事 (近畿)	花房 真二	松村 崇行	大阪管区气象台
地区理事 (四国)	城尾 泰彦	中代 誠	高松地方气象台
会計監査	高木 次夫	久保 裕之	日本気象協会関西支社
幹 事	森永 裕幸	山田 友幸	大阪管区气象台

○ 2015 年度関西支部理事会報告

6月27日11時から、「エル・おおさか」において、2015年度総会に先立ち理事会が開かれました。天満常任理事の進行により午後からの総会を前に、各議題の報告及び審議が行われました。

まず、第31期役員の変動による補充として、前項のとおり支部長より新役員が指名されたことが報告されました。次に2014年度の事業報告、収支決算報告、及び会計監査報告について、続いて2015年度事業計画案と予算案について各担当理事から説明しました。第37回夏季大学は「熱帯気象と大気海洋相互作用」のテーマで2015年8月22日（土）に京都市での開催とし、教育活動の拡充として、今年度も夏季大学への高校生参加費を無料にすることが承認されました。また、生徒の参加率の向上が図れるように、夏季大学の開講前に同じ会場において、大学で気象学を学びたい高校生や、気象の知識を活かした就職を希望する方を対象に、「気象関係合同進路説明会」を実施することが承認されました。

最後にその他意見交換において、年会や総会への出席者数も近年減少傾向で少なくなってきたこと、また、年会への発表応募数も少なくなってきた状況を踏まえ、総会・年会を廃止してはとの提案がありました。6月の総会・年会を廃止して、審議については年1回開催（6月）する理事会で、発表会は例会に集約するという事で討議しましたが、廃止の方向性についての反対意見はありませんでしたが、その時期については今後検討を重ねて判断することとしました。

○ 2015 年度 関西支部総会および年会報告

<2015年度気象学会関西支部総会> 2015.06.27 13:00~13:50

総会では、最初に総会成立審査を行い、関野幹事から役員18名を含む個人会員の出席者23名、参加票により議決権の代理行使または意思表示を行なった個人会員が269名で、関西支部通常会員数481名の三分の一を超えており総会が成立する旨、報告がありました。続いて、第31期後期の役員が紹介され、上垣内支部長が開会の挨拶を行いました。



総会の様子

その後、京都大学の内藤氏を議長に選出して、議事が進められました。まず、2014年度の事業報告・収支決算報告・会計監査報告が行われました。続いて2015年度事業計画案・予算案が審議されました。関西支部理事会から、①2015年秋季大会に向けては実行委員会を組織して運営すること、②教育活動の拡充については、2015年度は近畿地区で一定の成果を得てから中国、四国地区に展開することとし、近畿地区においては毎年開催している夏季大学に高校生の参加費を無料とし、生徒の参加率向上を図るため、夏期大学開催日に同じ会場において気

象関係合同説明会を企画することとした。内容は、気象を学べる関西支部内の大学の紹介、気象庁への就職と仕事、気象の知識を活かせる就職先を説明するとともに個別の面談も行うこと、③2014年度の試行を踏まえ、今年度から例会講演要旨集、年会講演予稿集の電子媒体化により提供を開始することなどが提案されました。議題については、原案どおりすべて賛成多数で承認されました。

議長解任の後、総会・年会の廃止を理事会で検討する旨を説明し、総会は閉会となりました。

<2015年度気象学会関西支部年会> 2015.06.27 14:00～15:55

年会には総会出席者の他、研究発表に関係した大学生など 29 名の出席となりました。発表題目数は昨年同様 5 題、講演時間 20 分を確保することができました。

座長は、前半 2 題を山下理事（大阪管区気象台）、後半 3 題を石岡理事（京都大学）が担当しました。題目は「降水エコーの動きに着目して～2015 年 5 月 12 日の事例～」、
「ALERA2-WRF アンサンブルダウンスケールによる台風発生までの初期擾乱の発達予測と初期値の関係性-PALAU2013 で観測された台風 4 号の事例-」、後半の部では
「高輝度海面水温データセットを用いて算出される日本沿岸風況の精度検証」、
「GSMaP マイクロ波放射計アルゴリズムに対する地形性降雨推定手法の導入と推定降水量改善に向けた開発」、「化学気候モデルより得られたフリーラン実験のバイアスについて」を大学、気象台から発表していただき最新の知見が得られたほか、活発な討論をとおして技術交流が図られるなど充実した年会となりました。



年会の光景

年会終了後は懇親会が行われ、関西支部の活動や秋季大会の開催についての話などで盛り上がり、親睦を深めることができました。

○ 関西支部気象関係合同進路説明会報告

関西支部第 37 回夏季大学の開催日（2015 年 8 月 22 日（土））に合わせて、大学で気象学を学びたい高校生や気象の知識を活かした就職を希望する方を対象にした「気象関係合同進路説明会」を実施しました。

夏季大学開講前の 1 時間を使って、前半 40 分間は、大学教員による「気象を学べる関西支部内の大学紹介」（20 分）、気象庁職員による「気象庁への就職と仕事」（10 分）、気象予報士会会員による「気象の知識を活かせる就職先」（10 分）の 3 つのプレゼンテーションを行いました。後半 20 分間は、個別相談会と称して、参加者が大学教員、気象庁職員、気象予報士会会員と自由に個別に面談できる場を設けました。

参加者は総数 17名で、その内訳は高校生 3名、大学生 9名、一般（不明含む）5名で、その他にも、学生の引率者と見られる方々が何人か参加されていました。本企画は今年度が初めての試みであったため、当初は高校生の参加を主に想定していましたが、実際には大学学部生の参加者の方が多いというやや意外な結果となりました。参加人数はそれ程多くはなかったものの、個別相談会では、今後の進路のことだけでなく、学問的に踏み込んだ内容について熱心に質問する学生の姿も見受けられ、参加者の熱意を十分に感じとれる企画となりました。

第一回目の開催としてはまずまずの反応であったことから、関西支部としては、来年度以降もこの説明会を継続して開催する方向で検討していく予定です。

尚、本企画での配布資料の作成には、関西支部内の大学関係者や大阪管区气象台の方々、関西気象予報士会の方々の多大なご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。



進路説明会での個別相談の様子

○ 関西支部 第 37 回 夏季大学報告

関西支部第 37 回夏季大学を、2015 年 8 月 22 日（土）に、京都テルサ東館 3 階大会議室において、大阪管区气象台及び日本気象協会関西支社の後援で開催しました。今回は「熱帯気象と大気海洋相互作用」をテーマとし、以下のとおり 3 題の講義が行われました。



夏季大学での講義風景

- 1 「熱帯太平洋が引き起こす気候変動」
時長宏樹氏（京都大学白眉センター/防災研究所 特定准教授）
- 2 「熱帯積雲対流のマルチスケール構造をとき解す～雄大積雲から MJO まで～」
高藪縁氏（東京大学大気海洋研究所 教授）
- 3 「ひまわり 8・9 号がひらく新しい気象学」
別所康太郎氏（気象庁気象衛星センターデータ処理部 システム管理課長）

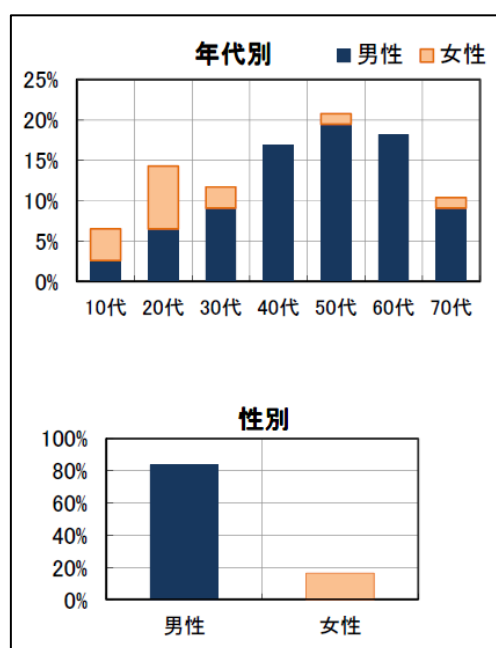
講師の皆様は、それぞれの専門分野の最新の研究成果を、カラフルな図面や動画を使って分かりやすく講義して下さいました。第一講義（時長氏）では、気候変動における大気海面相互作用の重要性と、その具体例としてエルニーニョ・ラニーニャ現象及び数十年スケールの気候変動現象について解説して頂きました。第二講義（高藪氏）では、マッデン-ジュリアン振動（MJO）の構造及びメカニズムについて、衛星データや数値シミュレーションの解析結果を基にして詳細に解説して頂きました。第三講義（別所氏）では、今年度運用が開始されたひまわり8（及び9号）の特徴を紹介して頂くと共に、これらの衛星が切り開く今後の気象学研究の可能性について語って頂きました。受講者も大変熱心に聴講され、講義後の質疑応答では、素朴な疑問から専門的な議論まで数多くの質問がありました。

受講者に対して行ったアンケート結果は次のとおりです（回収率87%）。受講者は前回より約20名増加すると共に、アンケートの回答率も前年度比で10%増加するなど、今回のテーマに関する受講者の関心の高さが伺えました。年代別で見ると、前回と同様20代と40代の参加が多かったのですが、50代・60代がさらに多かったのが特徴です。昨年度に引き続き、気象学会の裾野を広げることを目的に、高校生の参加を無料とした結果、3名の高校生が参加してくれました。気象学会員の割合は、昨年度とほぼ同じ、35%となりました。

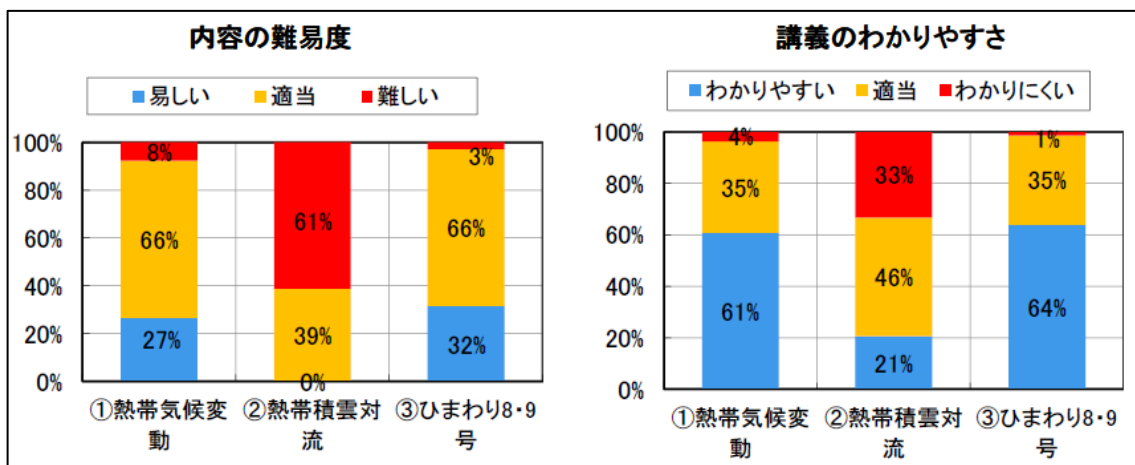
全体の70%が京都府・大阪府・兵庫県の3府県からの参加となり、過去3年と比べて、近畿地方以外からの参加が少ない結果となりました。今年度も、東京都、千葉県、神奈川県、広島県、

岡山県、鳥取県、徳島県、高知県、福井県など遠方からも参加いただきました。また職業別で見ると、公務員（教員含む）、会社員・自営業、学生（高校生・大学生・院生）、その他で大体4分の1ずつであり、職業については、幅広く参加いただけた結果となりました。

夏季大学を知ったきっかけは、電子メールによる案内が40%と、昨年（26%）と比べて増加いたしました。他に、気象学会機関誌「天気」とポスターが12%、気象学会関西支部WebPageが21%、気象学会関西支部ニュースが4%と、それぞれの広報の成果が表れた結果となりました。今後も、複数の広報スタイルを維持していくことが重要と思われます。受講経験を見ると、今回初めて参加された方が全体の38%となり、昨年度（47%）と比べて減少しました。3から9回目の参加者が41%となり、複数回受講いただいている結果となりました。

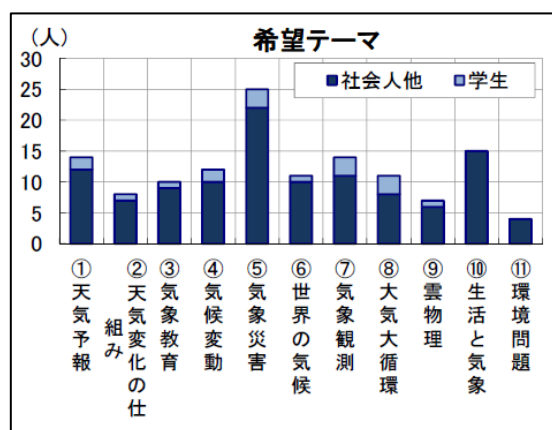


参加した感想を尋ねると、講義数が「適当」と回答した受講生が9割以上と昨年同様に非常に多い結果となりました。また、講義時間が「適当」と回答した受講生が85%と昨年同様に多く、講義時間が「長い」「短い」と回答した割合はそれぞれ8%でした。講義の難易度に関しては、「適当」と「わかりやすい」を合わせると全ての講義で6割を上回りました。



今後取り上げてほしいテーマについては、「気象災害」を希望した割合が19%、「天気予報」「気象観測」「生活と気象」がそれぞれ11%で、基本的に昨年とほぼ同様の傾向でした。

今回のアンケート結果をもとに、関西支部では、多くの皆さんに満足していただける夏季大学を企画していきたいと思えます。来年度も多数の皆様のご参加をお待ちしております。



○ 気象学会秋季大会実行委員会報告

2015年度秋季大会は、2015年10月28日～30日に京都テルサを会場として開催されました。参加者（前納登録者と当日受付者の合計）は979名で、過去最多の参加人数となりました。

関西支部の理事・幹事のほか、大学・研究機関・気象台関係者を加えた計20名で結成された実行委員会が、約2年をかけて大会の準備・運営にあたりました。会場予約に始まり、シンポジウムの企画、会場の準備やスタッフの確保、保育施設の斡旋、そして大会当日の受付、口頭発表やポスターセッションの会場運営、懇親会の幹事などを、実行委員一丸となって進めてまいりました。今回は、大会運営事務の効率化のため、受付業務の一部外注化や、プログラム及び受賞者情報を記載した大会ハンドブックの作成等の工夫も重ねた結果、大会期間中大きなトラブルも無く、盛会のうちに大会を終了させ

○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: http://www.metsoc.jp/Form/nyukai_kojin.pdf

入会申込書(個人用)

公益社団法人 日本気象学会 FAX: 03-3216-4401

(二重線の枠内だけを記入しFax, 又は郵送願います。)

フリガナ		生年月日	(西暦) 年 月 日
姓 名		職業	
性 別	1. 男 2. 女		
刊行物などの送付先			
〒 -		(電話)	
現住所 (刊行物などの送付先と同じ場合は記入不要)			
〒 -		(電話)	
勤務先名/所属部署, 又は大学・学校名/在籍学部など (できるだけ詳細に) 及び所在地・電話番号			
〒 -		(電話)	
電子メール・アドレス			
会員区分 (希望する区分を○で囲んでください。学生/高年割引適用を希望する方はその文字を○で囲んでください。)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ A会員 (年会費 6,900円, 「天気 (毎月刊)」を無償配布) ・ B会員 (年会費12,600円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ: 偶数月刊)」を無償配布) ・ C会員 (年会費 6,600円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) A会員 (年会費 4,200円, 「天気」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) B会員 (年会費 8,100円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) C会員 (年会費 4,000円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) 			
注 ① 学生割引を希望される方は、在学証明書 (コピー可) などを提示願います。			
② 高年割引を希望される方は、4月1日に65歳以上であることが確認できる免許証 (コピー可) などを提示願います。			
③ 年の途中から入会される場合、会費は月割となります。 (参考: 月割の会費)			
刊行物の配布開始希望 年 月	(A会員: 580円/月, 学生・高年割引適用の場合 350円/月)		
天気 年 月号から	(B会員: 580円/月+950円/2月, 学生・高年 350円/月+650円/2月)		
気象集誌(JMSJ) 年 月号から	(C会員: 1,100円/2月, 学生・高年割引適用の場合 670円/2月)		
その他刊行物の定期購読の希望有無			
気象研究ノート	1. 希望する (号から)	2. 希望しない	
大会講演予稿集	1. 希望する (年 春/秋 から)	2. 希望しない	
来年からの会費納入方法 (希望の番号を○で囲んでください。)			
1. ゆうちょ銀行口座からの引落	注 ① 1. 2. 3. の場合は、手続きに必要な申込書類をお送りします。		
2. 銀行口座からの引落	ご記入がない場合は 4. とみなし、請求時に払込取扱票をお送りします。		
3. クレジットカード決済	② 1. 2. 3. の場合の引落手数料は学会が負担します。		
4. 郵便局からの振込 (払込)	③ 4. の場合、振込手数料は申込者負担とさせていただきます。		
通信欄 (その他)			

以下、学会事務担当者記入欄:

月割会費	天気: 冊 × 円 = 円	気象集誌: 冊 × 円 = 円	合計: 円
会員番号	所属支部	受付日	20 年 月 日
		承認日	20 年 月 日

2013.04.25